

古典籍にみる日本の装い ～図書館所蔵資料を中心に～

化粧の部

都風俗化粧傳 [常磐松文庫]

速水春暁齋画 版本3冊 美 絵入 文化10(1813)年
大阪秋田屋太右衛門等 角書 女子教養 24.8×17.5 cm

女子の化粧に関する一切の事件を図説したもの。

化粧についての具体的な記述がしてあり、多岐にわたったレベルの高い内容で、総合美容読本ともいうべきものである。また当時のファッションの中心地である京都の文化を織りまぜてあり、地方都市在住の女性にとっては、まさに渴仰の書であった。

装束の部

化粧眉作口伝 [常磐松文庫]

写卷子本1巻 彩色図入 [文化・文政頃]
伝授奥書 水島ト也 根岸東左衛門 志茂清左衛門 18 cm

当時の流行の眉の描き方を図解入りで説明したもの。また、眉化粧のほか、髪や衣裳についても記されている。

服色図解 [常磐松文庫]

本間輿一 版本2冊(初後) 美濃判(27×19.2 cm) 彩色絵図 文化13(1816)年

初編 冠衣以下一切の服飾を図解したもの。

後編 烏帽子、末廣、直垂、狩衣奴袴、布衣、素袍、刀等の色彩を図解したもの。

烏帽子雛形 [黒川文庫]

紙製黒漆塗 16種 明治24年

烏帽子とは、奈良時代から江戸時代にかけて用いられた男子のかぶり物。おもに公家、武士の平服時に用いられた。

雛形とは、実物を形どって小さくしたもののこと。

装束着用次第之図 [常磐松文庫]

伊勢貞文著 写本 寛政6(1794)年 松岡辰方写 30.9×27.1 cm

装束寸法を記した、藤原永綱の『撰塵装束抄』を訂正し、束帯着用次第の大要を採録したもの。

典侍装束一具雛形 [黒川文庫]

紙製6種(7袋の中欠1) 天保2(1831)年 美加乃舎 袋書

典侍とは、令制の後宮十二司の1つである内侍司(ないしのつかさ)の次官。

この典侍の装束の雛形。唐衣、緋袴、裳、張袴、五衣、表着、打衣がある。展示してあるものは、唐衣と裳である。

布地の部

江戸庶民の染織 [大型本]

浦野理一著 昭和52年 毎日新聞社 39 cm

江戸時代のごく一般の人達が、どのような染織をつくり、着用したかについて、更紗、友禅、友禅小紋、小紋、唐草、縞、格子、緋が、柄見本とともに取り上げられている。

展示してあるものは、「見延山朝参之図」(国周画)である。算くずし、工字つなぎ、市松など庶民の縞柄の好みがよくうかがえる錦絵である。

縞帳 絹物之部 [常磐松文庫]

実物見本貼込 1冊 明治31年 31×21 cm

縞とは、線で構成する文様の総称。2種類以上の色系を用いて、織物の縦、横、あるいは縦横に種々の線をあらわしたもので、そのあらわれ方により、縦縞、横縞、格子縞に大別される。江戸中期以来、木綿の流通とともに縦縞の隆盛をみるようになり、庶民の好みにも一致し大いに取り入れられた。

縞帳は、この縞柄の端布を集めて1冊とした見本帳のこと。使い古しの暦や通い帳、手習い草紙などを裏返してとじ、そこに端布を丹念に貼り込んでいったものである。

小紋帳 [特殊資料室]

1冊 (柄見本 129種貼合) 半横 16.5×24 cm

小紋とは、文字どおり小さい文様を布地いっばいに型染したもの。大柄、中形などに対して文様の小さいという意味で、文様の大小の分類上からでた名称。小紋は、江戸時代の武士の袴に定め小紋として用いられるようになり、飛躍的に発展した。

小紋帳は、この小紋の端布を集めて、1冊とした見本帳のこと。

さらさ型手本 [常磐松文庫]

染型集 彩色 無刊記 1冊 27.3×18.5 cm

さらさとは、文様染の1つ。綿布や絹布に数色の染料や顔料をもって、手描きや型染で文様を表したもの。室町末期南蛮貿易により、インド、ペルシャ、ジャワ、シャムなどから、花文染の木綿布が舶載され、異国風な文様と美しい色彩、使い込むほどに味わいが出る堅牢な染色が喜ばれて、江戸中期以降流行した。

古金襴裂集 [常磐松文庫]

裂地貼込 (194点) 1冊 23丁半 手製仮綴 24.5×16.5 cm

金襴とは、もと中国より渡来した織物のこと。斜文地などに平金糸や撚り金糸、色糸を用いて、文様を織り出した燦襴とした外観のある織物。産地は京都の西陣。帯地、能衣装、表装地などに用いられる。古く中国から渡来したものは名物裂として珍重されている。

花襲 [常磐松文庫]

市田弥一郎 明治31年 襲雛形100図 32 cm 付色見本48種 紋雛形目録

襲(かさね)とは、上と下に着るそろいの着物のこと。また、着物を重ねて着ること。この本は、着物の模様の見本帳である。

《参考資料》

国書解題（増訂改版） （025/Se59/上下）	佐村八郎著	臨川書店	1968.12
眉の文化史 （383.5/Ts34）	津田紀代他編著	ポーラ文化研究所	1986.8
化粧の民俗 （383.5/I73）	石上七鞘著	おうふう	1999.3
江戸の化粧文化 （383.5/W46）	渡辺信一郎著	平凡社	2002.6
都風俗化粧伝 （383.5/Sa99）		平凡社	1982.10
原色日本服飾史 （383.1/I25）	井筒雅風著	光琳社	1989.12
江戸服飾史 （383.1/Ka48）	金沢康隆著	青蛙房	1998.9
きもの用語大辞典 （593.1/So19）	装道きもの学院編	主婦と生活社	1979.12
総合服飾史事典 （383.1/So28）	丹野郁編	雄山閣出版	1980.10
新田中千代服飾事典 （593.033/Ta84）	田中千代著	同文書院	1999.3
有識故実大辞典 （210.09/Su96/I）	鈴木敬三編	吉川弘文館	1996.5

～ここで紹介した資料の利用について～

常磐松文庫
黒川文庫
特殊資料室

特殊コレクションにつき、閲覧するためには手続きが必要です。
レファレンスカウンターにご相談ください。